

# コミュニティゾーン

OMORIYAMA

**ZOO**  
**NEWS**

2004・MAR

**3**

No.65



ハワイガン

画：佐藤一男



秋田市大森山動物園  
Akita Omoriyama Zoo

# HOT INFORMATION

## ほっといんふおめーしょん

### 動物の話題から—新しい仲間たち

ワピチ (♂1、♀1 旭川市旭山動物園より来園。シフゾウ舎の南側で飼育展示)



▲ オスのワピチ

北米の森林などに生息する大型のシカの仲間です。体重300kgを超し、ヘラジカに次ぐ大きさです。エルクまたはアメリカアカシカの呼び名もありますが、ワピチとは、先住民族の呼び方で「うっすら明るい色のシカ」というような意味のようです。

ハワイガン (♂5、♀5 東京都大島公園より来園。フライングケージで飼育展示予定)

現地では、鳴き声から『ネネ』と呼ばれるハワイ諸島の固有種です。乱獲や捕食動物の移入で一時野生下で30羽程度まで減少しましたが、人工繁殖などの保護活動が実り、絶滅の危機を脱した経緯があります。

(4～5 P特集でも紹介しています)



▲ 大島公園のハワイガン

シフゾウ (♂1 東京都多摩動物公園より来園。シフゾウ舎で飼育展示予定)



▲ 多摩動物公園のシフゾウ

メス1頭だけの展示が続いていたマリーのお婿さんとしてスエオというオスが近々やってきます。

特集でもご紹介しましたが、自然界では絶滅したシフゾウだけに、種の存続のためには複数の場所での飼育、繁殖を目指すことも必要です。

この他、新しいペア形成のためにダイアナモンキー、サンショクキムネオオハシなどを導入予定です。

### ペンギンとツキノワグマの繁殖



▲ 初泳ぎするペンギンのヒナ

昨夏、当園では初めて2羽の自然繁殖に成功したフンボルトペンギンが、昨年暮にも別々のペアがそれぞれ1羽ずつヒナをかえました。1羽は先日プールで初泳ぎするなど、順調な成育を見せています。

2/27、冬ごもり中のツキノワグマのカエデが2頭の赤ちゃんを出産しました。順調にいけばゴールデンウィークにはお披露目できるかもしれません。

### 動物園技術者研究会の開催



▲ 東京都多摩動物公園の発表—コウノトリの義嘴装着—

2/5・6、秋田市で関東・東北地区の動物園や水族館の飼育関係者が集う『技術者研究会』が開催されました。これは互いの飼育技術の向上を目指すもので、希少種の繁殖や治療例などの研究発表の他、飼育展示に動物の視点を生かす改善提案など、興味深い話題が盛り沢山でした。

# 行事の結果と案内

## 3/1 ~ 3/29 スノードリーム号来園



▲ スノードリーム号来園

冬の秋田市内を秋田中央交通株式会社観光バスで巡る「スノードリーム号」が今年も運行されました。当園もコースの一部

に組み込まれ、サル山の餌やりや王者の森展望台からの眺望などを楽しんでいただきました。

## 新パスポートとポイントサービス

平成16年の開園に合わせ、動物園パスポート（年間使用券）のデザインも一新しました。また隣設する浜田観光遊園地では、パスポートの購入、利用に応じたポイントサービスも新たに開始しました。



▲ 新パスポート

## 2/8 冬の観察会

第15回目となった冬の観察会は、事前申し込み制から自由参加制（無料開放）に切り替えて開催しました。当日は穏やかな天候にも恵まれ、3,336人の参加者でにぎわいました。ゲート前では特大雪だるまが参加者を出迎え、園内ではペンギン、アシカ舎前など、あちこちに人だかりができました。



▲ 特大雪だるまがお出迎え

## 『たいよう』風を受けていつまでも元気で回れ！

国土交通省秋田河川国道事務所では、国道7号（秋田南バイパス）に建設した風力発電用風車の愛称を子供たちから募集しました。333点の候補から選考の結果、太陽のエネルギーと「たいよう」のように元気で回って欲しいとの意味を込め、2年前当園で話題になったキリンの「たいよう」と同じ名前が風車につけられました。



▲ 発電風車「たいよう」

くるくる回る風車がいつまでも元気よくクリーンエネルギーを生みだし、私たちが安心して道路を利用できるようにして欲しいものです。

## 3/20 開園



▲ トラのお食事拝見

春分の日の開園も5年目となり、定着してきました。今年は開園セレモニーとトナカイの角製キーホルダープレゼントで始まり、開園記念

クイズや動物のお食事拝見など特別イベントを開催しました。

### 行事案内

● 写生大会	7月下旬
● サマースクール	8月2・3日
● 夜の動物園	8月14・15日
● 動物愛護フェスティバル	9月下旬
● さよなら感謝祭	11月23日
● 冬の観察会	2月13日

### 目次

表紙 ハワイガン	1
ホットインフォメーション	2~3
特集 絶滅の淵から	4~6
飼育レポート	6
飼育日誌・後記	7
かたばた通信	8

# 特集

## 絶滅の淵から復帰への試み



現在、いろいろな野生動物が絶滅の危機に瀕していることはご存じのことと思います。

今回は当園で飼育する動物の中から、野生ではもう見られなくなったり、絶滅寸前から復活した経緯のある動物について特集してみました。

飼育展示担当：武藤 朱

突然ですが、クイズです。次の数字は何を意味していると思いますか？

### Q1

推定100（1930年代）→11（1963年）→177（2002年）

### Q2

①推定100（1865年）→2（1911年）→0（1921年）  
②推定10以下（1900年）→64（1922年）→250（1939年）

### Q3

推定25,000（18世紀末）→68（1953年）→145（2001年）

### Q4

→188（1993年）

“動物の数？”そうです。具体的な種類はわからなくても、なんとなく想像はつきますね。おおまかですが、各年代の“野生の数”または“飼育下の数”を表しています。

それではちょっと難しいですが、各々の動物の歴史と絶滅を防ぐ取り組みについてお話ししましょう。

### Q1の答えは

### ニホンコウノトリ

国の特別天然記念物に指定された1956年には野生で20羽、1963年には11羽に減少していました。兵庫県が野生の鳥を捕獲して飼育を開始しましたが、なかなか繁殖には結びつきませんでした。本人（本鳥？）達にしてみれば、急に慣れない場所に連れて来られさぞ困惑した事でしょう。しかし、1985年にロシアから譲り受けた6羽の幼鳥（野生由来）が1989年に繁殖！それ以後はペアも増え、毎年確実に繁殖し、現在は106羽まで増えています。飼育だけではなく、この兵庫県豊岡市周辺では鳥たちが生活しやすい環境作りにも力を入れました。例えば、採餌場となる河川の浄化や水田での農薬使用の制限、ねぐらの森林整備。そうした地域の人達と行政の協力により、1999年には研究・増殖・飼育・公開の機能を持った“兵庫県立コウノトリの郷公園”が開設されました。



▲ 国内で自然復帰を目指すコウノトリ

近親交配を避けるために国内の動物園と個体の交換も行われています。

2002年には周辺地域に野生個体が飛来し、定住しているようです。2003年からは飼育個体の野生復帰訓練も始まり、2005年の復帰を目指して取り組みが進められています。



▲ 大空をはばたくコウノトリ  
兵庫県立コウノトリの郷公園提供

国内では、14施設で177羽（2002年）が飼育されています。当園ではやっとペア飼育となり、去年シュバシコウが繁殖に成功した縁起のいい場所に移って春を迎えます。

## Q2の答えは

## シフゾウ

蹄は牛、角は鹿、頭は馬、体はロバに似るがそのどれでもないことから“四不像（シフゾウ）”の名がありますが、実際はシカの仲間です。中国北部～中部にかけての平原に分布していたと思われます。



①100頭は皇帝の狩猟場（北京）にいたもの。つまり、この時既に野生では絶滅していたこ

▲ 一度全滅した？シフゾウ

とになります。大洪水や義和団の乱の影響で数が減り、1911年の2頭を最後に中国では絶滅したと考えられていました。

②一方19世紀末、イギリスのベッドフォード公爵によって集められた十数頭の群れは繁殖に成功。その後の戦時下などの危機を乗り越え、1963年には400頭にまで増えたのです。1985年より中国では保護区に飼育個体を放す試みも行われています。海外では45園館で380頭（2000年）、国内では5園で14頭を飼育しています（2001年）。

当園では、2002年に1頭繁殖しましたが、その仔が病死したため、メス1頭の飼育が続いていました。今春やってくるオスに期待しています。

## Q3の答えは

## ネネ

『ネネ』…は現地の呼び方なのでその姿は想像できないでしょう。別名『ハワイガン』、その名のとおりハワイ諸島にしかない水鳥の仲間です。



▲ 絶滅の淵から蘇ったハワイガン

絶滅寸前になった理由は、①人による食用、②野生化した家畜による被害、と考えられています。また、彼等はあまり飛ぶことも泳ぐことも出来ません。なぜなら、溶岩がゴロゴロした高地で生活するため、立派な翼も大きな水掻きも必要ないのです。当然、敵が来ても逃げ切れず、隠れる草むらも見つけられず、捕まってしまうのです。こうして51年前には世界中でわずか“68羽”まで減少したのです。この内訳は、野生33羽、飼育35羽（ハワイ19羽、イギリス16羽）でした。

では、“68羽”からどうやって増えたのでしょうか？

結論からいうと、飼育の容易さ（とは言うものの、当時の関係者は手探り状態だったでしょうから、苦労はあったと思います）と保護活動のたまものなのです。

まず、飼育下で順調に繁殖し、1955年には野生の数を上回りました。過去に近親交配の弊害があったため、野生の個体を入れる工夫もありました。こうして1960年から飼育個体の野生復帰が開始できたのです（1960～1973年：1195羽放鳥）。

現在、日本国内でも16園で145羽を飼育しており（2001年）、そして今年から当園も10羽の飼育を始めます。

## Q4の答えは

## ダイアナモンキー



▲ またこんな姿を見たいダイアナモンキー

アフリカのシェラレオネ～ガーナ南西部に分布する樹上性のサルです。森林破壊の影響を受けやすく、狩猟の対象にもなるため20年以上前から激減しています。“CITESワシントン条約（絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）”では、最も厳しく規制されています。海外では65施設188頭（1993年）、国内は9園で22頭（2002年）を飼育しています。当園は国内の調整を受け持っていますが、高齢のメスのみの飼育となっており、国内産の若い個体で新たなペア形成を目指しています。

このように、ヒトによって振り回されて辛く厳しい“冬”を過ごしてきた動物たちですが、今回ご紹介した動物たちには、同じヒトの手によってそれを乗り越え、“春の光”が少しずつ当たってきています。

未だ厳しい“冬”が続く他の仲間にも早く春が訪れるよう、私達も努力していきたいと思っています。

# 人畜共通感染症について

飼育展示担当（獣医） 三浦 匡哉



▲ 動物たちと遊んだら…



▲ きちんと手を洗おうね！

人畜共通感染症というのは、『ヒトから動物へ』または『動物からヒトへ』と病原体が感染すること、あるいはその感染によって起こる病気のことをいいます。感染源が動物であることから『動物由来感染症』と呼ばれることもあります。感染する病原体となる微生物や寄生虫は多種多様であり、WHO（世界保健機構）で確認されているだけでも150種類以上あるといわれています。

輸送形態の発達などにより、遠い外国だけの病気と思われたものが、私たちのすぐ身近なところで起きています。狂牛病、オウム病、SARS、鳥インフルエンザなどここ2～3年の間の出来事ですが、これらの病気を防ぐ取り組みは既に行われています。狂牛病にかかった牛肉が市場に出回らないように食肉検査所で厳重な検査が行われていますし、外国からむやみに動物が入ってこないよう、空港等の検疫所でも厳しい審査が行われています。

動物園にはいろいろな動物がいますが、ただ、見るだけで病気がうつるということは絶対ありま

せん。仮にどんな動物を触ったとしても、石けんを使った手洗いやうがいなど当たり前のことをするだけで病気を予防できます。また、動物園では飼育担当者が毎日動物の健康状態を観察し、異常があればその都度獣医が診察や検査をしたり、展示場や動物の寝室を衛生的に保つなど病気を出さないように努力しています。

日常生活においても同様で、ただ病気の怖さだけが一人歩きしている感がありますが、正確な情報に基づいて生活すれば何も恐れることはありません。ペットを飼っている人なら、常に清潔な状態を保ったり、動物がいつもと違う様子であれば掛かり付けの動物病院や獣医師に相談すれば問題ありません。病気を恐れるあまりにペットを捨てるなどは論外です。捨てるという行為は病気の解決にはなりません。逆に、事態の悪化や『動物の愛護及び管理に関する法律』に触れて大問題になる場合もあるのです。

『むやみに恐れるな！しかし、決してあなどるな！』という姿勢が強く求められています。

# 飼育日誌より

04.1.1 ~ 04.3.1

- 1/1 ☀ サル山：♂No.9、死亡。  
ペンギン：A巢のヒナ、1羽を確認。もう1羽は不明
- 1/5 ☀ シマウマ：コタロウ♂、仔を追いつつ、すぐナイヴ♀が仲に入りトラブルなし。  
ノドジロオマキザル：♀1、外の排水溝に横たわっているのを発見、病院へ収容。
- 1/6 ♣ ノドジロオマキザル：昨日入院した個体、死亡。
- 1/11 ☼ ラクダ：成♀仔♀間で闘争あり。
- 1/15 ☼ ペンギン：室内No.6巢、抱卵1個目。
- 1/18 ☀ サル山：仔♀、衰弱のため病院に収容、治療する。
- 1/19 ☼ ペンギン：室内No.6（左2青右67、左緑右黒のペア）、2個抱卵中。2個目は17日産卵の様。レッサーパンダ：健康♂とハナ♀の交尾を確認。かなりしつこくマウント。  
ホンドテン 1/16搬入の♂個体、病院からテン予備舎へ移動。（ケージで飼育）
- 1/21 ☼ ♣ チンパ：室内展示場にノリコ♀、ユミノスケ♂、ミユキ♀を出す。最初ユミノスケがミユキを追うがその後はトラブルなし。  
ノドジロオマキザル：全頭体重測定、3頭入れ墨。
- 1/25 ☀ レッサーパンダ：ナナ♀、キュルキュルとよく鳴く、マーキング行動も多い。
- 1/27 ☼ タンチョウ：展示場に血痕あり、その周りに小さい足跡（イタチ？）があった。  
イヌワシ：ペア、午前中に交尾行動を確認。メスは拒否。
- 1/28 ☼ ↑ キリン：♀、朝、展示場に出す前に室内で軽く動き回る。その際、転倒し起きあがるまで暴れる。ケガはなかったが非常に危険だった。  
アライグマ：夕方、交尾らしき行動あり。
- 1/30 ♣ ☼ ウサギ：ギン♀とAZ♂、繁殖用に同居。  
レッサーパンダ：健康♂とナナ♀をペアにする。ハナ♀は室内展示場で別居。  
チンパ：冬の観察会展示実験として室内展示場に餌入り段ボール箱をおく。ユミノスケ♂、少し興奮。
- 1/31 ☀ サル山：子ザル♀、元気になったためサル山に戻す。  
アライグマ：闘争により1頭（性別不明）治療のため、病院に収容する。
- 2/1 ☼ ♣ アライグマ：前日入院個体の左耳欠け、♂(0063 AD573)と判明。去勢する。
- 2/2 ♣ ↑ ラクダ：仔、落ち着きなく噛みついてくる。  
ライオン：♀ミカと♀ララ、キーパー通路下にて見合い。人を気にして進展せず。  
ワシミミズク：♀、AMから地面に窪地を作りうすくまっている。（抱卵体勢）

- 2/3 ♣ アライグマ：♂左耳欠、退院してアライグマ舎へ。♂両耳欠、去勢のため入院。  
ワシミミズク：♀、産卵し、抱卵している（1卵目）。
- 2/4 ☼ ♣ シマウマ：♀、流産。（仔、体長11.0cm BW 87g）流産後、特に異常は見られない。
- 2/7 ♣ ☼ ペンギン：A巢ヒナ、初めて巢の外に出た。昨年夏のヒナより成長は遅いが、順調の様。ラクダ：仔、発情。壁に体をこすりつけてうなり声を上げる。
- 2/8 ♣ ☼ 冬の観察会  
チンパ 室内展示場に餌を入れた箱を置く。トラブルもなく箱の中から餌を取り出して採食。  
ワシミミズク：2卵を抱卵中。
- 2/11 ☀ トナカイ：成♀、朝、掃除の為放飼場に入ってもずっと座ったままだった。  
ワシミミズク：3卵を抱卵中。
- 2/12 ♣ レッサーパンダ：健康♂ナナ♀、朝（9時頃）交尾確認。その後も♂がしつこく♀を追う。  
ラクダ：♂、攻撃的につきま要注意。  
イヌワシ：ペア、巣台へ巣材を大量に搬入している。
- 2/13 ☀ イヌワシ：午後、松の枝を投与、オスの搬入回数。16：30頃、完全交尾時の鳴声を確認。  
ワシミミズク：4卵を抱卵中。
- 2/21 ☀ ワオキツネザル：ケージに分けていた個体を群れに同居。日中は特に問題なし。
- 2/22 ☀ チンパ：ユミノスケ、ノリコ、ミユキ間にトラブルあり。ミユキ、額に負傷。
- 2/23 ☼ トナカイ：軟便のため駆虫剤と整腸剤を投与。  
ラクダ：仔、納舎後に号令で座らせ、頭絡装着。特に嫌がる様子なし。
- 2/24 ♣ ワタボウシパンシエ：出産していたが胎児は死亡。妊娠期間150日、9月に交尾、妊娠？
- 2/27 ♣ ツキノワグマ：出産、腹の下から仔が顔を出して寝ていた。（1頭確認。）
- 2/28 ♣ ↑ ペンギン：室内No.6巢の卵、1個割れていたがヒナの姿は見られなかった。  
カピバラ：隔離個体の♂タクマ、♀群と再び同居。
- 2/29 ↑ ウサギ：♀カヨ、出産。2羽確認したが、詳細不明。
- 3/1 ♣ ペンギン：A巢ヒナ、午前中プールで泳いでいた。（75日目）  
サル山：室内で別飼育の♀仔、衰弱のため入院。  
ツキノワグマ：仔2頭確認。開眼しているようだ。

2/8 冬の観察会から  
雪のクマさんに乗っ  
ちゃった！



## 飼育動物数

	種類	点数
哺乳類	57	295
鳥類	54	190
は虫類	10	37
魚類	3	8
合計	124	530

(平成16年2月末現在)

## 編集後記

今回の特集では、今春飼育を開始する種を含め、希少動物の種の保存に関する取り組みをご紹介します。動物園が個々でできることには限りがありますが、他園との協力や連携により大きな成果が得られることもあると思います。ホットインフォメーションでご紹介した飼育技術者研究会等での発表や交流は、その意味でも有意義なことと思われま。

今回、内容がやや堅めとなったのは、野生生物を取り巻く状況の厳しさを真剣に受け止めている結果と感じていただければ幸いです。

— 千葉克己 —

# かたばた通信



クマさん、こんな所に登ってんだね!

## 第15回冬の観察会から

普及企画担当  
千葉 克己

2月8日(日)、初の自由参加方式で開催した観察会は大勢の参加者でにぎわいました。参加者は普段見られない雪の中の動物たちに大興奮でしたが、人気だったのは動物ばかりではありません。クマが冬ごもり中のクマ舎では空いた展示場を解放しましたが、クマの代役に作った雪像と丸太の展示台が意外な人気スポットとなり、行列ができるほどでした。

## こんにちは

### ツキノワグマの出産

飼育展示担当  
武藤 朱

2月27日、冬ごもりしているメスの『カエデ』のお腹の下に肌色の物を見つけました。じーっと見ているとそれが一瞬小刻みに動き、子どもだということに気がつきました。しかし、オスの『ミノリ』はまだ若く交尾できる年齢ではありません。『ミノリ』と『カエデ』が来園したのは、王者の森が完成した昨年9月です。おそらく以前の飼育場所である阿仁町のクマ牧場に父親はいるのでしょう。『カエデ』にとっては初産と思われますので、できるだけ刺激せずに子育てを応援したいと思います(ちなみに子どもは二頭です)。



冬ごもり中のカエデ  
(○の中が赤ちゃんです)